



資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』  
関東学院大学非常勤講師  
三信化工株式会社

### 海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学卒業、佐賀県立有田工業高等学校・  
常勤講師を経る。

# 黒板へ展開する、付せん

「付せんに、どんどん気がついたことを書いて、シートに貼ってみて」

お茶碗に描かれた自然や水など季節を移ろう伝統文様から、それぞれが受け止めた印象を互いに出し合い聞く、グループワークでのことです。この付せんを使った授業は、札幌市立平岸高台小学校の雲雀馨栄養教諭からご提案いただき、すぐ導入することになりました。

## 机上から黒板へ

出前授業でグループワークを行うと、児童による発表の時間が取りにくいのが実情です。同校の授業では、ワークの結果から代表的な意見を筆者が拾い出し、黒板へ展開しました。このワークの目的は、伝統文様で何が表現されたか事象を当てることではありません。多様な表現方法があるのと同時に、受け止め方も多様で良いと感じてもらうことが目的でした。児童の意見の多



▲器の伝統文様についてのグループワークを指導する雲雀馨栄養教諭  
(札幌市立平岸高台小学校)

様さを、すぐに視覚化できることは、今後落とし込む手法として確立できそうです。

## 黒板ができる、意見の集約

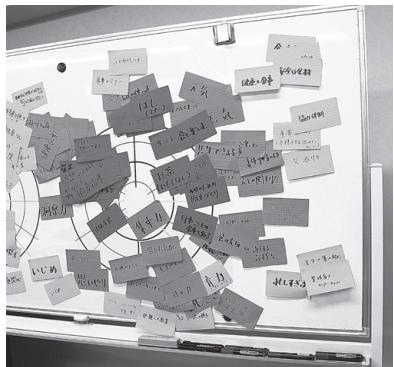
付せんを使ったグループワークでは、意見の広がりや、付せん同士の関係を整理する手段として用いられることが多いかと思います。実際、紹介した授業では、意見の広がりを確認する手段として用いました。

一方で、黒板を使うと、また違った可能性が広がります。グループワークではできない、多くの人の意見全てを整理してまとめるとも、広いスペースを使うと可能です。意見を集約すると、多くの場合は意見に偏りが出るため、課題抽出や新たな目標設定に使えます。

例えば、給食指導や委員会活動で、次のような展開はどうでしょうか？

「みんなが考えた給食の5つの目標、それ





◀付せんにして貼り集約することで、意見の偏りを見つけ、課題を抽出する  
（学校教育研究会・勉強会より）

ぞれ頑張ったことを、一つずつ付せんに書いて黒板に貼ってみようね」

→各自、行動したことを見せて付せんに書く。

→目標ごとに黒板で指定された場所に付せんを貼り、偏りを確認。

「みんなそれぞれが頑張ってくれたね。じゃあ今度は、こここの少ない部分をどうしたら良いのか、みんなで考えようね」

【付せんの内容 = 行動】【付せんの偏り = 評価】【議論 = 対策】と考えると、いわゆるPDCAサイクルになります。グループワークでは、人数・意見が少なく、明確な偏りが確認できません。広い・多いということだけで、できる可能性が広がります。黒板・付せんの活用、もう少し模索してみようと思います。

※授業に使える食育資料、情報発信！  
『いただきます.info』 <https://itadakimasu.info>

## 知りたい！ うつわと食のミニ知識

### 天草陶石と肥前陶磁器

素地が白い陶磁器を一般に磁器といいますが、磁器と呼ぶための一つの条件が光を透過することです（洗面台やタイルなどは白くても透光性がないため、白地の陶器に分類する）。明治以降モダン化し、輸出も多い陶磁器において、垢抜けた白い素地の原料は重宝されます。

近代以降で国産磁器の『白』を語る上で、最も重要な原料が、熊本県天草から産する「天草陶石」です。非常に上質な原料で、特に明治以降の有田焼・波佐見焼を含む佐賀・長崎一帯の肥前陶磁器の主原料として、産業の基盤を支えます。

『前回、有田焼は泉山陶石だと書いてない？』と思われるかもしれません。実は泉山陶石は、含まれるチタンと鉄により、少し硬い感じの素地に焼き上がるため、徐々に使用頻度は下がっていきました。

明治～昭和中期の天草陶石の品位は、骨董屋の店頭などで安く積まれる雑器からもうかがえます。澄んだ白の美しい地肌の器はまず肥前陶磁器です。ふっと手に持ち上げて、器

の内側をのぞき込むと、外側の染め付けのコバルトが、繊細に透けてドキッとします（写真）。非常に質の高い原料が当たり前に使われていたのがわかります。しかし良質がゆえに大量に採掘された天草陶石は、現在ではその品質の確保が困難となっています。

さて地理的条件で見ると、熊本の原料・天草陶石と、有田焼@佐賀県・波佐見焼@長崎県などの肥前陶磁器の産地とは距離があります。それでも産業が維持できたのは、間に有明海が存在し、原料を窯元まで運ぶのに水運が活用できたからです。その証拠として、陸運に変わった現在でも、有明海から、有田・波佐見への入り口に当たる塩田地区では、陶石を粘土にする陶土屋さんが残ります。



▲昭和中頃の茶碗。外側の染め付けが透けて見える